

令和5年豊能町議会 第5回  
交通特別委員会

会 議 録

令和5年12月12日（火）

豊 能 町 議 会

令和5年豊能町議会 第5回  
交通特別委員会

年 月 日 令和5年12月12日（火）  
場 所 豊能町役場 大会議室  
出席委員 6名  
池田 忠史 高尾 靖子 才脇 明美  
中川 敦司 管野英美子 小寺 正人

欠席委員 なし

委員外出席 永並 啓（議長）

本委員会に説明のため出席した者は、次のとおりである。

町 長	上浦 登	副 町 長	高木 仁
政 策 監	大西 隆樹	総 務 部 長	入江 太志
総 務 部 理 事	松本真由美	総 合 政 策 課 長	田中 久志

本委員会に職務のため出席した者は、次のとおりである。

議会事務局長 浜本 正義 書 記 杉田 庄司

本日の会議に付された案件は次のとおりである。

1. 北大阪急行線延伸に伴う阪急バスへの要望について
2. 令和5年度A I オンデマンド交通 有償実験運行について
3. その他

午前9時30分 開会

○委員長（池田忠史君）

皆さんおはようございます。

委員長がちょっと委員長でなくなりましたので、私副委員長が、交通特別委員会の委員長をさせていただくことになりましたので、よろしくお願いいたします。

ちょっと私、寒暖差アレルギーがひどくてですね、今日ちょっとくしゃみと鼻水が止まらないのでマスクをちょっとさせていただいておりますが、よろしくお願いいたします。

座って始めさせていただきます。

ただいまの出席委員は6名であります。

定足数に達しておりますので、第5回交通特別委員会を開会いたします。

委員会の開会に当たりまして町長から挨拶がございます。

上浦町長。

○町長（上浦 登君）

はい。皆さんおはようございます。

本日はお忙しい中御参集いただきまして誠にありがとうございます。

さて先週の12月の8日の金曜日にですね、夜の10時45分からNHKの番組でドキュメント72時間という番組がございまして、妙見の森リフトのですね最後を取上げた放送がございまして、私は録画でですね見させていただきましたが、歳がいったせいか感慨深くですね、見させていただきまして、これはですね地域公共交通とは少し違うということですのでけれども、やはり地元の大切なインフラをですね、なくしたなあということ、胸が痛くですね、やっぱり普段から御利用いただかなければ、なくなるということを実感をした次第でございます。

さて、本日の交通特別委員会ではですね、Sidebooks内にございます協議事項をお願い

をしてございます。

一つ、いろいろと御意見をいただきましてですね、次に繋げていけたらと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

簡単ではございますが、開会に当たりましての御挨拶とさせていただきます。

本日はよろしくお願いいたします。

○委員長（池田忠史君）

ありがとうございました。

それでは、これより本日の会議を開きます。

本日の協議事項は御手元に配付のとおりでございます。

1番目に、北大阪急行線延伸に伴う阪急バスへの要望についてということで、前回の交通特別委員会で阪急バスに対して、北大阪急行線箕面萱野駅開業に当たり、千里中央行き直通バスを何本か残すように、まずこちらの思いを口頭で伝えるということでまとめ、9月29日に当時委員長である永並議長と当時副委員長であった私と浜本局長の3名で阪急バスを訪問いたしました。

その報告を局長からしてもらいます。

浜本局長。

○議会事務局長（浜本正義君）

はい。おはようございます。

議会事務局、浜本です。

それでは報告をさせていただきます。

まず阪急バスのほうからですね、営業企画部の計画課長、この方はですね、モビリティの推進部課長も兼ねておられますけどもこの方と、それからもうひと方、営業企画部の計画課主任の方このふた方で御対応いただきました。

まず訪問の前にですね、用件を電話等で伝えておりましたけども、また改めてですね、永並議長、当時は委員長でございましたけれども、それから、池田、当時の副委

員長から思いを口頭でも伝えていただいたというところがございます。

伝えたんですけども、伝えたとすぐにですね、その計画課長が冒頭で申し上げられました、申し上げられた内容が、箕面萱野駅開業後は、千里中央駅へのバス乗り入れはなくなる。これは輸送力を調整するためそうするんだということでした。

そのほかに、千里中央駅へのバスの維持の声は承知しているけれども、乗客が減る中での検討の余地はないということでした、主要な鉄道までのフィーダー輸送と阪急バスは考えているということでした。

収支改善赤字脱却ができていない中でこれは難しいということでした。

まず冒頭にそのようなことを言われたあとにですね、阪急バスさんが用意されました事業環境についてという資料をちょっと、用意されてたんですけども、それをもとに状況を説明いただきました。

まず全国的なバスの状況ですね、バス輸送の状況をまず言われてまして、全国の乗合バスの輸送人員は1968年がピークであったと。その後も人口は増えているんだけど、自動車の保有とか、あるいは少子高齢化で輸送人員は減っている、さらにコロナ禍では減ったということでした。

そのほか、コストに占める人件費の割合が高いと。バスが運行すると、直接経費が80%近くかかる。輸送量を減らす以外に、経費の削減余地がほとんどないということになります。

それから、バス運転士は、他の産業に比べ労働時間が長く、年間所得も低い敬遠されるという傾向にあるということをおっしゃいました。

これ今言ったのは全国的な傾向をまず申し上げられました。

それから阪急バスの状況といたしましては、阪急バスは、輸送人員は1972年がピーク、収支構造はコロナ前でも経常利潤は0.73%しかなく1%を切っている。

コロナ禍の利用者減が赤字に直結したということです。

それから、運賃は、赤字若しくは赤字の一手手前にならないと、値上げができない、国の許可がおりないとおっしゃられてました。

そのほか、阪急バスの運転士は、今後定年退職者が加速的に増える。労働力維持のため、新規採用が必要であると思っている。

また、2024年の働き方改革、これ労働時間の規制の件ですけども、これで必要な運転士の数がさらに運転士業界全体のことで、増加するというふうにおっしゃってました。

このため運転士の数に合わせた輸送量になってしまうことが今後懸念しているということでした。

それからもう一つ、人材確保の施策に取り組んできたけれども、それに反し、コロナ禍において給料を下げている状況であるということをおっしゃられてました。

そのほかにおっしゃられたことですけども、これは11月5日で大阪、兵庫でバスの4路線が運行終了というのが出てましたけども、その話。

それから、運転士は、月8回の週休日のうち3日は出勤してますよということでした。

それからあと川西の大和団地の話をされてまして、そこでは、バスの利用者が減っておったけれども、地域で利用しようと運動し、利用者増に繋がったということになります。

それから、車両の更新なんですけども普通は15年だけでも18年に延ばしている状況である。

それとバスの運転士のイメージが良くない、離職者は他の産業やタクシーに行ってしまう。バス運転士の良いイメージづくりができないでしょうかというふうに逆に投げかけられました。

それから最後に、阪急バスのお得な各種定期券があるのでそういった利用してもらいうようにどんどんPRしてほしいというようなことおっしゃられました。

主な発言というのは向こうがおっしゃられていたことは、以上でございます。

よろしくお願ひします。

○委員長（池田忠史君）

局長から報告してもらいましたけれども、千里中央行きの直通バスを残す云々の話ではなくてですね、もう、今聞いていただいたような状況になっております。

阪急バスに対して、今後、要望等どういたしましょうか。

御意見をいただきたいと思ひます。

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

おはようございます。管野です。

千里中央まで行けないということで、交通費はそのままなんですか、運賃はそのままなんですか。

私たちが、萱野中央から千里中央まで北急に乗らなきゃいけないんですけども、その分引いてくれてるじゃなくって、千中まで行く運賃と萱野中央まで行く運賃は同じなんですか。

○委員長（池田忠史君）

いや、これは多分ですけど、山間料金なんで一駅一駅で、区間ごとに金額が決まってるんで、萱野までで千中行くよりは少し安くはなるけど、毎回一回ずつ乗る人にとってはちょっと安くなるけど、学生とか、定期買ってる人にとっては逆にね、結局値段上がってるんで、高くなるんですよ。た

だだから、そっから千里中央まで行く分が200円ぐらいかかりますんで、明らかにバスそのまま行くのに比べると値段は上がっている。はい。

ほかございませんか。

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

阪急バスがおっしゃるなら、それは仕方がないかと思うんですけど、今、来年の7月まで実証実験をやっている、そのバスも年度途中ですけども、3月からは萱野中央に行くっていうことですか。

こちらに聞いたほうがいいんでしょうか。

○委員長（池田忠史君）

まだバスの路線の改編っていうのがいつされるのかということまではちょっと私たち行った時点では教えていただいてないので、本当に萱野まで来るときにすぐに改編されるのか、その辺はちょっとまだ確認はできてません。

ただ、今も言ったとおり、千里中央から萱野駅に延伸されると、遅かれ早かれできるだけ早いタイミングで、バスのダイヤの改編はされると思ひます。

はい、永並議長。

○議長（永並 啓君）

これの発端になった話が萱野になることで学生の方々が、今、千中から各高校なりのバスが出てるんで、そうなるとう萱野で止まるとふた駅ぐらいの、北大阪急行へ乗らないといけないので、交通費がプラスになってしまいますよっていうところから始まるかと思うんですよ。

ですから、阪急バスのほうは事情を聞くと、もうそういうこちらのちょっとした便利になる要望をお願いするというような環境ではなく、もう近くの駅に、先ほど局長が説明されたように、近くの最寄り駅まで繋ぐというような役割に徹底しているとい

うような状況なんで、もし本来の目的の高校までっていうことを考えるのであれば、一つの方法としては、高校サイドのほうに、萱野を通ってくれませんかというアプローチはできるのかなあと。千里中央からか、例えば、関西大倉高校であれば、池田の石橋のほうからと千里中央からバスが出てるかと思うんですが、そのところに、どちらかのバスを萱野経由でっていうような働きかけはできるのかなという感じはしています。

○委員長（池田忠史君）

千里中央から、今バスが、どこの学校が出て行っているのかちょっとあまり詳しくはわからない。

今言われた関西大倉、それから早稲田摂陵、それから追手門も出てると。梅花とか、大学だけですか。私立ですね公立はもう、そういうバスは出てないので、結局、例えば千中からモノレール乗換えてとか行くような高校、公立高校については、もう結局は、電車には乗っていかないと駄目ということにはなりますね。

はい、永並議長。

○議長（永並 啓君）

高校側についていうのはまだ、現状どうするかっていうのもまだわかってない状況なんで、まずはそちらのほうを、萱野駅までの延伸されることによって、バスのターミナルがそっちにほぼ移ると、そういった場合、どうされるかっていうのを事実確認をしたうえで、この委員会ですらうかという対応を考えてもらってもいいかなと思います。

理事者のほうに考えていただきたいのはもし、萱野止まりで、千中まで交通費を負担というと明らかにこのひと駅分、ふた駅分というものは、東地域から通ってる方々にはもうただ単なる交通費の負担増になる

わけですからそこら辺の補助等も含めて人数等も含めてちょっと考えておく、事前に考えておく必要あるのかなという感じはしています。

○委員長（池田忠史君）

はい、中川委員。

○委員（中川敦司君）

今議長何や東の地域だけの話あったけども、この問題絡んでくるのは、東だけじゃなくて、西のときわ台、東ときわ台の人が、千里中央に行ってっていうようなバスの人も、同じ影響やと思います。

○議長（永並 啓君）

別にそこの特定したわけじゃなくて、そういう高校の利用者の方たちがどれくらいいるのかっていうのを調べてもらったうえで、そういう対策ってものを先に、考えておいてもらいたいということです。

○委員長（池田忠史君）

これちょっと、理事者のほうの方に確認したいんですけど、例えば千里中央まで、通ってる高校生がどれくらいいるとかっていうのは、そちらのほうでは把握されてたりはするんですか。

ないですよ、それはねさすがに。

入江総務部長。

○総務部長（入江太志君）

おはようございます。総務部、入江です。今、中学校卒業して、どちらの高校に行かれてるのは卒業時に学校のほうは多分、中学校のほうは進学先は把握されてると思いますが、どのような経路で通学されてるかについてまでは、ちょっと聞いてみないとわかりませんがそこまでは把握はされていないのかなと今お聞きして思いました。以上です。

○委員長（池田忠史君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

中川です。

さっき議長やったっけね、私立は送迎バスがあるので、その、いわゆる扱いをうまいことしてもらったら、対応はきくんちゃうかという私もそう思います。

問題はやっぱり公立の学校、公立高校とかね、そういうところが、いわゆるちょっと、輸送バスがないので、学校のね不便になるだろうと私もそう思いますんで、そういった意味で影響が出る出ない人、影響出ない人は萱野駅から、もう地下鉄いうかね、北大阪急行乗ってそのままずっと大阪まで、大阪方面まで行くような、学校その辺あるんかどうかわかんないけども、そういう方は、多分影響はないのかなと。

要は、さっきも言ったけどモノレールを使わなあかんとか、それからあと千里中央から今何かバスで学校へ行ってるような高校があるんやったら、そういうところは影響が出そうですね。

そうなってくると考えなあかんのは、ターミナル、千里中央と箕面萱野かな、萱野中央かな、というふうな、パターンになる。どっちに重きを置きはんのかはそれは阪急バスの考え次第やけども、要はその萱野中央から今千里中央からバスに乗って高校へ通ってはるようなところの場所まで行くような路線便かな、そういったものを構築してもらえたら、これはきれいに解決する問題やと思うので、そういうふうなことも考慮して、バスダイヤ組んでやってもらえませんかみたいなことは、言って言えんことはないのかなと議会としてね、そんなふうに思った次第です。

○委員長（池田忠史君）

はい、菅野委員。

○委員（菅野英美子君）

調査する必要があるんじゃないかなと思うんですね、千里生命科学とか千里青雲高

校に通ってた方いらっしゃるし、寝屋川の高専、千里中央まで行って、モノレールに乗ってっていうか、京阪で行く子もいるれば、そののところ、調査したほうがいいんじゃないかなと思うんです。

これから、受験を控えてますよねもうほぼ私立は決まったということなんで、決まった時点から、新しい公立校行くお子さんに調査をするべきじゃないですか。

○委員長（池田忠史君）

今、千里中央からだど、山田高校とかね、例えばモノレールとか、あと北千里高校とかもそうですし、千里青雲とかあと豊島高校とかも、千里中央から行ってはるとかいうのは聞きいますね。

バス便で千里中央まで行って戻ってくると豊島ちょっと通にくいから、逆に白島っていうところでバス乗換えて、千里中央便ですけど下走る便で、団地の中降りてそこから歩いていってる人とかもいてはるけどバスの便もなくなるんで、もう取りあえず、ちょっと僕、一般質問でさしてもらった中で、箕面もほぼ萱野止まりになってしまいう予定みたいな感じなので、そこから千中行く便がなくなる感じにはなると思いますが。

今通ってはる人はあれですけど、例えばね、それがあがるために行きたいけど、交通費もかかるから別の高校に行くとかいうことになる可能性もありますし。

才脇委員。

○委員（才脇明美君）

先日箕面の市議会議員の報告会にちょっと参加したんですけど、延伸について、喜ばしいこともあるんですけど、半分の方がね、大変ちょっと困ってるということがあって、箕面市民の方もすごく憤りを感じているということがあったんです。

箕面市民がそうであるならば豊能町はも



うもつと、もつともつとなんですよね。

これ、阪急に対してあらがうことができるのだろうか、いうことを私ちょっとすぐ報告を聞いて思うんです。

この交通特別委員会が、要望を本当に提出しなければならないっていうことは、必要なかなあとか、今ちょっと感じている次第です。どうなんでしょう。

それよりもこれは置いといて、また町独自でちょっと考えていったほうがいいのかな。

ちょっと話が違いますかね。

○委員長（池田忠史君）

豊能町の住民さんにとっての交通って言うと、ずっと言ってますけど、能勢電さんと阪急バスさんが主になってまして、やはりここがなくなると大変なことになりますし、今言ったように、どこまで行くかっていうのも、行き先ですよ。

もう、やっぱりそれがだんだん違ってくると、利便性が損なわれると、利用状況も悪くなってくるので、悪循環になってくると思うんですよ。

実際、もうバス2時間に1本しかないんですよ。やったら、バスに乗られへんから車でつてなってくるとか、本当は良くないんですけど、逆にそういう悪循環にもなってくるので、やはりある程度の利便性を確保、交通事業者にもするようお願いしていかないと、なかなか交通機関の維持っていうのは難しいとは思ってますけれども。

先ほど局長から報告あったとおり阪急バスさんのほうも、もちろん営利事業ですから、要望ばかり全部聞いてたらとてもじゃないけど事業は成り立たないので、どこかで折り合いをつけるって言ったら変ですけど、まだ聞いてもらえそうなところっていうのを、皆さんでちょっとお知恵を絞っていただいでですね、何か出していただけ

ればと思うんですけども。

これちょっと私のほうがちょっと聞きたいんですけど、阪急バスさんと町のほうは何か、どんなお話をされているのかっていうのは何かあるんですか。

はい、田中総合政策課長。

○総合政策課長（田中久志君）

はい。おはようございます。

総合政策課の田中です。

町のほうと阪急バスの、どういったお話をされているかというところなんですけども、先ほど局長のほうから御説明もごさいまして御報告もございましたけどもそういったお話につきましては阪急バスのほうから聞いておるような状況で同じような内容を聞いてるような状況でございます。

ただ、北急延伸に伴いまして、じゃあいつから、そういった路線が改編されるであつたりとか、ダイヤがどうなるであつたりとかっていうそういう具体的などころまでの協議というのはまだできておりませんので、いつから変わるというところまではまだ聞いておらないような状況になっております。

○委員長（池田忠史君）

それっていわゆるあれですよ、お話を向こうから聞くだけでこっち側の要望等というのは別にないですよ。

田中総合政策課長。

○総合政策課長（田中久志君）

総合政策課、田中です。

阪急バスからのこういった方針でいくよというところを聞くということになるかと思っております。

○委員長（池田忠史君）

これ、町としては何もできない感じなんですかね。

はい、高木副町長。

○副町長（高木 仁君）

先ほどからこの委員会の場で皆さんおっしゃっていただいているように、特にバスというのは民間の事業者でございますので、なかなかこちらから、何か具体的にできるかということ、何もできないっていうんですかね、先ほど課長申しあげました話を聞くということだけになるのかなというふうに思います。

○委員長（池田忠史君）

永並議長。

○議長（永並 啓君）

ちょっと我々が阪急バスさんのほうに訪問した際に、とても残念だったのが、こういう内容は、町に話してますということをおっしゃられた。

経過であったり、事業の環境であったりとか、いろいろあるっていう悪くなってるからっていうことは話してますと。それで我々が聞いたような形になったんですね。

できたら田中課長おっしゃられたような内容というのはもし聞いたのであれば、その情報ってやはり議会とも共有してもらいたい。

そうすることで、やはり、町よりも例えば議員のほうの方がもっとバスを利用しましょうとか、住民さんに対してのPRという形であれば、より住民の皆さんに接している議員さんのほうが向いている部分もありますよね。

言われたのが、もっと利用者を増やして大和団地のことも例に挙げて、いろいろと利用者、地域で乗ってもらうという取組をしはりましたよとか、でも、我々行くまでそういう状況って全く知らなかったんですよ。

その直後にノリ説みたいなのを松本理事が、一応配付してもらいましたけど、そういったのも、おそらく事前の段階で行っているような感じだったんですね。

そういったもし、特に交通事業者から、今こういう状況ですよって話なり、状況を聞いたんであれば議会のほうにも共有してもらいたいなっていうのは非常に感じましたし、それはちょっと、残念だったなっていうところはありますね。

そこはこれからよろしくお願いします。

○委員長（池田忠史君）

そうですね、今議長おっしゃられたみたいに私たち要望する前に1回取りあえず意見交換でいきましょうということで行かしてもらったんですけど、その時点で資料いただいたときに、この話って町の方は知ってるんですかみたいなことを聞いて、もう、普段からお伝えしてますみたいな話で、じゃあ僕ら何しに行ったみたいな感じになってましたんで、ちょっとそういう意見交換等ですねされてるのであれば、やっぱり、それはそこだけじゃなくて、議会のほうにも、ちゃんと伝えていただけるようにちょっとお願いしたいとは思っています。

はい、松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

はい。いろいろ、情報等が入ってきたときですねそれをお伝えするタイミングというのがどこかなというのはちょっと整理しないといけないのかなと思いますけれども、情報として共有しておいたほうがいいということは、今の御意見いただきまして、少し考えたいと思います。

○委員長（池田忠史君）

はい、永並議長。

○議長（永並 啓君）

北大阪延伸に伴う阪急バスへの要望については、一旦状況を確認するというところで、どうでしょうかね。

各千中からどれくらいの高校なり、負担が一気に増える人がどれくらいの方がいるのか、影響が出るのかっていうのをちょっと

とまだここではわからない状況なんで、こちらと、交通特別委員会の中で、ちょっと理事者を交えながら、その状況確認というものをどこまで把握できるかもまだわからないし、高校になるとちょっと管轄外の部分もあるんで、どこまで把握できるかもわからないし、ただ一つ気をつけないといけないのは何人かの議員さんが、交通費の補助とかを一般質問の場でも求めてますけどそれとはちょっと切り離さないと、これはあくまでも普段通ってたものが、阪急バス、そういうちょっと社会インフラの影響によって、その数年間一気に想定外の負担が出たっていう話ですから、これが例えば数年経つと、それを見越したうえで高校を選ぶってことができるようになりますから、だからその時限的なものとして考えるという側面もあるんですよ。

そこをちょっと切り離して交通費の補助であったとしても、今回のこの、もともとは千里中央まで行って、そこから高校に通ってた、その分の交通費でいけてたものが、ちょっと手前に萱野っていう駅ができたことによって、新たな交通費の負担ができたんで、その高校に通ってる何年間かは、補助するっていう方策もあるかと思うんで、そこら辺はちょっと切り分けて、また考える必要があるのかなと思いますんで。

ということでこの委員会としては、まずはその千中からどのくらいの人に影響があるのかっていう現状を調査するっていうことで、どうでしょうか。

#### ○委員長（池田忠史君）

そうですね、今の利用状況をまず確認して、先ほどから皆さんから御意見いただけてますけども、それと、あと私立高校のバスの便の件ですね、高校のほうにもし確認できるようであれば確認して、萱野になったらバスルートをちょっと変えて通るのか

通らないのかみたいなことか、その辺ちょっと確認をですねまずして。

はい、高木副町長。

#### ○副町長（高木 仁君）

今、永並議長がおっしゃった、御意見なんですけども、先ほど、入江部長が申し上げましたように進路先は確認できます。

そこまででしたら、こちらで資料がございましたので、今通ってらっしゃるお子様方、高校どこ行ってるのかなというのは確認できますが、例えば、西地区から通ってる、私のイメージでは、例えば豊中高校であったり、桜塚であったり、そういう公立の高校に千里を通して、千中通って通う子っているのかなって思ってます。

ただ、もしそういう方がいらっしゃったとしたときに、一方で西地区に能勢電が走ってますので、この機会に、料金が上がるのであれば、能勢電に乗換えてほしいという思いもございます。

なので、そこんところは、特に西地区については、慎重にこちらとしたら、能勢電車っていうのもありますし、阪急バスっていうのも二つ公共交通機関というのがございますので、できたら安い、この機会に能勢電のほう安くなったということであれば能勢電乗っていただいて、石橋から例えば私立の高校の送迎バスも出てる学校もたくさんございますので、千里から乗るんじゃないかって、石橋から乗っていただいて、能勢電御利用いただきたいという思いもございます。

なので、今申し上げた、永並議長おっしゃってる件については、お調べさせていただきますけども、どういう費用負担というんですか、交通費の負担をということで、この一般質問でも多くの議員の皆様から御意見いただきました。

町政懇談会に参りましても住民の方々か

ら多くの意見承っておりますので、そこは  
こちらでも、これから検討はさせていただ  
く予定にはしております。

ただ、今申し上げましたようなことを踏  
まえてですね、どういうふうな今、永並議  
長おっしゃっておられるように今在校して  
るお子さんの負担をどう軽減するのかとい  
ったことも含めまして、一度ちょっとこち  
らで検討させていただきたいというふう  
に思います。

○委員長（池田忠史君）

わざわざお金がかかるルートで行くつて  
いうのもなかなか、あんまりないパター  
ンだとは思いますが、例えばね、千里  
中央に塾があるから、塾通うのにそっち回  
りがいいからとかいうて行っはる人はも  
しかしたらまれにいるかもしれないですし、  
何かねそのルートまではちょっとかなか、  
どういう通っはるのか難しいかもしれな  
いですが、ちょっと、取りあえずわかる  
範囲で今の現状ちょっと状況把握をです  
ねしまして、また、今後それを踏まえたう  
えで、どうするかをまたちょっと皆さん  
で検討したいと思っておりますので、こ  
の件につきましてはちょっと要望云々よ  
りはまずは、取りあえず状況確認とい  
うことで進めさせていただいてよろし  
いでしょうか。

（「はい」の声あり）

○委員長（池田忠史君）

はい。ではそれでまず、こちらのほう  
は一旦確認ということで。

では、こちらのほうは一旦閉めさせて  
いただいて次にですね、2番目ですね、  
令和5年度A I オンデマンド交通有償  
実験運行についてですけども、現在の  
状況について、報告をいただけます  
でしょうか。

田中総合政策課長。

○総合政策課長（田中久志君）

総合政策課の田中です。

それでは10月17日より有償運行を  
開始いたしましたA I オンデマンド交通  
ハニタスの状況につきまして御報告を  
させていただきます。

運行開始から昨日で56日が過ぎま  
して間もなく折り返し点というところ  
になっております。

初めに、利用状況なんですけども、  
まずアプリの登録者数は、昨日時点  
です849名でこれは昨年度2月にな  
りますけども、約4割にとどまってい  
る状況ということでございます。

乗車件数なんですけども、これも昨  
日までの延べ件数というところで1065  
件で、一日の平均乗車件数は19件  
でございます。これは予約の部分で  
ございます。乗車人数なんですけども、  
人数のほうは昨日までで延べ1258  
名の方に御乗車いただいております、  
一日の平均乗車人数は22人という  
ことでございます。

乗車件数、乗車人数ともに、昨年度  
2月比で、約2割にとどまってお  
るというような状況になってお  
ります。

予約に関しましては、アプリの予約  
率が約75%というところで、こ  
ちらは前回同様に高い数値とい  
うところになっております。

続きまして共創プロジェクトの取  
組について御報告いたします。

今回の実証運行では、町、阪急バス、  
それから京都タクシーの3者協  
議会のメンバーだけではなくて、  
他分野との共創ということで、  
池田泉州ホールディングス様  
ですとか、H2Oリテイリング  
様、それから能勢電鉄様と、  
こういったところとも連携を  
いたしまして、地域の中で「コ  
トづくり」というところで地  
域の皆様、ハニタスを知る、  
乗るといったきっかけづくり  
を行っております。

10月5日にですねオープンしま  
したハニ

タスラボということで、これハニタスに関する拠点といたしまして、阪急オアシスの商店会の中に設置をしております、営業につきましては火木土週3日の午前9時半から3時までということで開けておるんですけども、こちらのほうでもアプリ登録なども行っておりますこちらでも毎回10名ほどの来客があるというような状況になっております。

また利用促進のイベントとしまして10月の7日に、オアシス前でオープニングイベントというのを実施いたしました。

また、10月26日には「ハニタスまるごとぬる」といたしまして、車両のペイントのイベントを実施しまして、こちらの吉川中学校の生徒さんをはじめ地域の方々にも、参加していただきまして約50名ほどの参加があったということです。

吉川中学校の生徒さんに関しましては、昨年度も実施したんですけども吉中のスマホ教室というのをですね、12月の2日に開催をいたしましてこちらでもまた西公民館のほうでしたんですけども、こちらでも昨年と同じぐらい、約50名ほど参加していただきまして、こちらは朝日新聞ですとか、読売新聞ですとかそういったにも取上げられたという状況になっております。

そのほか11月12日には秋フェスタというのを町のほうで開催したんですけども、こちらにも参加をいたしましてPRを行ったということです。

続きまして広報周知関係なんですけども、9月の25日に3者共同でのプレスリリースを行いまして、御利用ガイドというのを広報とよので同配しまして全戸配布をいたしております。

またハニタスに関するイベントなどのチラシにつきましては毎月、広報に同配をしてお知らせをしているという状況です。

それから、各種説明会についてなんですけども、これまでに各自治会ですとか、公民館などでのアプリ説明会、こちら、これも昨日までで21回開催をしております、延べ人数で約400名の方に参加をいただいております。

以上がですね、ハニタスの利用状況、中間報告的なちょっと報告になるんですけども、利用状況の報告とさせていただきたいと思います。

以上です。よろしくお願いたします。

○委員長（池田忠史君）

ありがとうございました。

ただいまの報告に対して質疑、御意見等ございますでしょうか。

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

前のアプリがそのまま使えると思ってはった人、思い込んでいる人がいて、ハニタスラボへ送り込んだことがあったんですけどね。

それと、300円は高いから220円の路線バス乗るわっていう人もいたんで、その辺りの意見を聞いておられるか、伺います。

○委員長（池田忠史君）

田中総合政策課長。

○総合政策課長（田中久志君）

はい。総合政策課の田中です。

まず1点目の御質問の前のアプリがそのまま使えると思っていたというような御意見なんですけども、こういった御意見につきましてはハニタスラボでもそうですし、私たちが行っております説明会でも十分説明をさせていただいておりますんですけども、前のアプリ、アプリ自体は変わってはいないんですけども、実は今回、クレジットカードでの支払いが可能になったというところでアプリ自体を更新かけておまして、その関係でどうしても、そのまま

使えることができなかつたと一旦更新かけたことによりまして再度アカウント登録が必要になりましたというところで、その辺につきましては十分説明をさせていただいたうえで、改めてインストールしていただいているというような状況でございます。

2点目の運賃の300円が高いのではないかなという御意見につきましても、お聞きはしておりますのでございます。

ただこの300円の運賃設定につきましては、いろんな考え方であるとか、価格設定があるんですけども、300円というのは移動コストというのは乗り合いでの移動コストをシェアするという考え方からですね、タクシーよりも安価な値段、路線バスよりも若干高い値段というところでちょっと間をとっているという考え方がございます。

あとは他ですね事例なんかも参考にしたところと、あとはこれまで豊能町内で走っております、公共交通の運賃設定に近い形で設定したというところで御説明をさせていただいて、300円で御理解いただいておりますという状況でございます。

○委員長（池田忠史君）

はい、菅野委員。

○委員（菅野英美子君）

私たちはそれを聞いています、バスより高くタクシーより安いっていうの。それを皆さんに周知できていないんじゃないんですか。

私はそういうふうに説明はしていますけれども、やっぱり220円の路線バスが走っている以上、なかなか難しいところかなと思うんです。

周知は同配もしていただいていますけれども、ここで、もっとPRしないといけないんじゃないかと思えます。

○委員長（池田忠史君）

田中総合政策課長。

○総合政策課長（田中久志君）

はい。総合政策課、田中です。

PR不足ではないかというような御意見をいただきましたのでちょっとまたPR方法につきましては考えさせていただきたいと思えます。

○委員長（池田忠史君）

才脇委員。

○委員（才脇明美君）

価格設定なんですけど、住民さんは、移動コストとかそういうことをちょっと考えてないと思うんですね、コスト面では。やっぱりこれ、月で買ったら定期券5000円でしたね、5000円。

やっぱり3000円、人間の心理として一日100円なら、100円なら買えるかなという、これは住民さんが言うてはります、西地区の。3000円なら買うてるだろうという、その辺のね、難しいお財布事情はわからないんですよ。

だから、その辺をもうちょっと、常識的にいろんなことを、全国的に考えたらいろんなもう300円とかはそれは通常かもわかりませんが、その辺をもうちょっと考えたほうがいいのかあとと思えました。

○委員長（池田忠史君）

田中総合政策課長。

○総合政策課長（田中久志君）

はい、総合政策課、田中です。

本当にこの運賃の議論というの本当に難しいなと思っておりまして、確かに300円ということで感覚的には路線バスと比較してしまうと、高いというイメージを持たれるというのは十分承知しております。

ただこの300円と運賃を決める、設定をするというときに、地域公共交通会議のほうで合意を得ているという状況なんですけども、ここには当然ほかの交通事業者さんもいらっしゃると思いますので、その利害の利害

関係の調整というのが入ってまいります。

例えば300円を200円にする100円するといったときに、例えばタクシー会社さんからするとどうなのかとか、そういったところの利害関係の調整が入ってまいりますので、一定交通事業者さん、他の交通事業者さんも含め、合意を得ているというところで御理解いただけたらというふうに考えております。

○委員長（池田忠史君）

はい、才協議員。

○委員（才協明美君）

タクシーと今おっしゃいましたけど豊能町にタクシー何台走ってるんですか。

○委員長（池田忠史君）

はい、田中総合政策課長。

○総合政策課長（田中久志君）

はい。総合政策課、田中です。

京都タクシーのときわ台営業所がございませうけども、こちらの営業所には車両台数5台ございませう。

以上です。

○委員長（池田忠史君）

はい、才協委員。

○委員（才協明美君）

だから、わかって私質問してるんですけど、タクシーを引き合いに出したらあかんと思いますわ。

○委員長（池田忠史君）

松本総務部理事。

○総務部理事（松本真由美君）

はい。先ほど田中がお伝えしましたのは地域公共交通会議に諮ってですね、そこで御理解いただいたうえで、この金額が決まっているという説明をさせていただきました。

300円が高い300円は安いっていう御意見はいろんなところで、スマホアプリの説明会とか行っていると聞きます。

高いという意見のほうが多いのは事実ですけれども、普段タクシーを使われてるだとか、遠いところにバス停があるとか、おっしゃられる方については、この300円は安いという評価をされていらっしゃると思います。

全体的に全員にですね、300円が高いか安いか問題を聞いているというところでは今ございませうので、ただ今社会実験中中ございませう。こちらについてはアンケートを今後とっていくことにしておりますので、アンケートでいただいた意見をですね、社会実験終わった後、検証の中で考えてまいりますので、こちらでいただいた意見もそのときには載せていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたしません。

○委員長（池田忠史君）

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

運賃のお支払いについてなんですけれども、高齢者にはもう無理だと思って300円、100円玉貯めときや言って、300円持って乗れって言うてるんです。

ですから、今どれぐらい、クレジットで支払っておられるのか、数字がわかりましたらお答えいただきたい。

○委員長（池田忠史君）

田中総合政策課長。

○総合政策課長（田中久志君）

総合政策課、田中です。

すいませう、ちょっとデータの集計がですね11月13日までの集計になります。1か月分の集計にはなってしまうんですけども、クレカの登録者数が11月13日の時点で22人というところになっております。

そのときの11月13日の時点での登録者数が831人でございまして、そのうちクレカ登録されてる方が22人というような状況でございませう。

○委員長（池田忠史君）

菅野委員。

○委員（中川敦司君）

PiTaPaやったら使えるのについていう人はたくさんいらっしゃると思うんですけど、その考えとかもないんですか。

○委員長（池田忠史君）

はい、田中総合政策課長。

○総合政策課長（田中久志君）

はい。総合政策課、田中です。

支払い方法についていわゆる交通系のICカードPiTaPaとかをお持ちの方たくさんいらっしゃると思いますので、利便性も上がるかと思っております。そこにつきましてはちょっと今回の実証実験の中では、実現はできないんですけども、今後ですね、検討になるかなと思っておりましてちょっとコスト等も踏まえて検討ということになると思います。

○委員長（池田忠史君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

はい、中川です。

2月の無償でやった実験と比べて、今回は約25%ぐらいに利用者、利用状況が落ち込んでるといふね、そのような説明がございましたけども、確かに300円が高い安いは別にいたしまして、実際、この移動手段を必要とする人がもしかしたら、それほどないのかな。

私もそんな、ちょっとそんなふうだから、300円払うんやったら歩いて行こうとか、誰か家族に送ってもらうとか、そういうふうな形にとらえることができるかなど。私はそう思ってるんですけども、4分の1に利用者が減っているって当然、お金の件もあるけどもその辺り、どんなふうにか理由いうか、何か考えておられます。

理由いうか要因。

○委員長（池田忠史君）

田中総合政策課長。

○総合政策課長（田中久志君）

総合政策課、田中です。

前回の2月の実験のときには、無償ということもあったと思うんですけども、1か月間で3000人を超える方に乗っていただいたと。

それは喜ばしいことだったんですけどもそのときに、実際に路線バスの利用人数がどうなったかっていうところを見たときに路線バスの人数そんな減ってなかったんですね。

つまりは、普段、別に路線バス乗ってる人ではなくて、歩いておられる方、歩いておられる方が、無料やしということで、乗ろうかということで、乗っていただいたんではないかという仮説を立てているところなんです。

今回それが有償になりまして、要はお金を払ってまでは、歩いて行けるしということで、お金を払ってまではということでもちょっと御利用者が伸びていないのかなというような、今、分析といいますか、仮設で見ているということでございます。

○委員長（池田忠史君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

今2月の時点の状態と今の時点のそういういろいろね、差をね、いろいろ考えていた感じの内容の話をされてました。

その中の一つの見方として、実際その当時2月のときのバスの乗車人数、何かそんなも何かね、比較対象として何か、おっしゃっておられましたけども、福祉有償的な部分とかはどうなんですか。その辺りの利用が、今、そこはちょっと、分野が違うから、聞いても仕方ないかなと思うけどそういうふうな福祉有償的な、そういうなも



のも何か、ちょっと当時とちょっと違うねとかいつもと違うねとか何かそういうふうなところの比較、そういうふうなところもあわせて分析とか、要は、町内を移動するのは、阪急バスだけやなくて今回のA Iもあるけども福祉有償的な、そういうふうなものも当然町内走ってるんで、そういったところと、どんなふうな状態、バランスになっているのかみたいなものを、もしかしたら、考えたら、何か回答が出て、何かね、要因が見つかるのかなとか、もっと別なね、何かそういうのはもう思ったんやけどその辺りどう思われます。

○委員長（池田忠史君）

田中総合政策課長。

○総合政策課長（田中久志君）

はい。総合政策課、田中です。

福祉有償運送のおでかけくんととの比較まではちょっと今の段階ではできてないんですけども、おでかけくんにつきましては福祉有償運送ということである程度対象が限られている限定的な部分であるというところで、単純な比較は難しいかなと思っております。

今ちょっと3者協議会の中でもちょっとやろうとしてますが、2月のときに登録をして今回も登録している人、前登録して今回登録していない人っていうのの差をですね、見ていこうと思っておりまして、それは何かといいましたら、本当にハニタスが必要としている人はどういう人なのかっていうところを、見ていかないといけないなと思っておりましてそれはちょっとこれからやろうと思っております。

あとはアンケートですね、ちょっとアンケートがまだできていないのでアンケートもちょっと内容詰めながらこれからやっていくんですけど、アンケートをさせていただきまして、その辺りをもう少し細かく見

てアンケートと一緒にですね、見ていただけらなというふうには考えております。

○委員長（池田忠史君）

松本総務部理事。

○総務部理事（松本真由美君）

はい。アンケート等でですね、もちろん御意見をいただくっていうのはこのあとしていくんですけども、今折り返しに来てるところで、何が一番私たちが課題としてるかっていうとやっぱり知っていただいている人がどれぐらいいるかっていうことと、乗っていただきたい人に、PRというのが伝わっているかどうか、そこがわからないなというところが私たちの今の課題です。

そこをどう解決していくかっていうのを課内で話して、今していることといえばスーパー前ですね、机を一つ持って行きまして二つ持って行きまして、そこで座って、ハニタスの看板を置いてですね、うちの職員がハニタス御存じですかということから始まって知ってるよ2月乗ったけどもう乗れへんわと聞いたなら何で乗らないのってどうして乗らないんですかっていう感じで聞き取りということ。アプリの登録をさせていただくのが目的なんですけれども、今できてるっていうところはオアシス前、それからシートスのロビー、それから、コープの前も行きまして。

いろんなところに机と椅子を持って出張って行って、そのものを置いてですね、聞き取りをさせていただいてるところです。

この聞き取りをしているところで支所のほうにですね、この間あんな説明してはってんけど入れよう思うねんけどどうしたらいいのっていうような声 came たりとか、何か動かなければ始まらへんなというところを今感じているところでございます。

そんなことをやりながら乗っていただく

促進をしてですね、あとアンケートに繋がっていきなと思っておりまして、御意見としていただいている、どれだけPRできてどれだけの方が乗ってるのっていう御意見は真摯に受け止めながらですね、じゃあ何をしたらいいのかということをして今しているところで、今後はいらっしゃるところに向かっていこうというのも1人の職員から意見が出てまして、例えば豊寿荘とか、皆さん集っていただいているところに行ってください、同じような形で、御存じですかっていうのは、続けていこうと思っています。

それをしながら、乗っていただいている方にアンケートをとっていくというようなことを今後進めていこうと思っています。

○委員長（池田忠史君）

小寺委員。

○委員（小寺正人君）

今ハニタス走ってますよね。

目的がね、はっきりしてんのかどうかということなんです。

一つはね、路線バス、これが代替できるかと、これでね見てんのかね。それとも、コミュニティバスの替わりが務まるのかっていうのを見てんのかね。

要するに、私は路線バスを維持さえできたら、特に西地区はほとんどもうそれで間に合うような気がするんだけどね。

何をしようとしてんのか聞きたいです。

○委員長（池田忠史君）

田中総合政策課長。

○総合政策課長（田中久志君）

総合政策課の田中です。

この、AIオンデマンド交通のねらいといますか、何を目的にしているのだというところだと思うんですけども、大きくは、三つあるかなと思っています、一つは生活圏の移動の充実なかなと思っています。で、先ほど、前段の阪急バスのお話でもあ

ったんですけども、今後ですね利用者の減とか運転手不足とかも相まって、路線バスの維持というのがやっぱりこれ非常に難しいような状況になってきておりまして、その中でどう生活圏の移動を充実させていくのかといったときに、当然朝夕のある程度その需要が多いときには、ハニタスでは当然賄えないと思ってるんですけども、日中の、例えば9時から5時の間でしたら、路線バスに替わるような新しいモードで生活系の移動を充実させていくというこれが一つです。

で、もう一つは能勢電鉄とか阪急バスとの路線バスがございまして、そちらとの接続性を、接続の利便性を向上させるというのが二つ目です。

で、バス停まで遠いとかっていう御意見を結構聞くんですけども、AIオンデマンドですと自宅から割と近いところにミーティングポイントがありますので、ほかの例えば能勢電の乗継ぎとか路線バス乗継ぎというのがそれですやすくなるのではないかとこのように考えてますので、二つ目としましてはそういったほかの交通網との接続性を上げていくというのが二つ目です。

最後は、やはり人口減少が進んでいく中で、やっぱりその地域の活性化をどう図っていくかというときに、活性化図るためには人の動きが当然必要になってきますので、ハニタスの移動のしやすさというんですかね、回数というのを増やすことによって地域活性化していくというのが大きな三つのねらいかなというふうに考えております。

○委員長（池田忠史君）

小寺委員。

○委員（小寺正人君）

路線バスの代替に使えるかどうか、それを主に見てるんだったらね、採算いうことは当然見ないといけないですよ。

阪急バスさんがやってんのやから、そこがそこをしっかりと見てるんだらうと思えますけど、そうじゃなしにコミュニティバスみたいな感じで走らそうとしてるんだったら、また見方が違ってくるよね。

今まで、コミュニティバスに近い形で、東西走らしたり、リレー便とかいうて走らしてるほとんど乗ってないんですよ。もうほとんど空気乗せて走ってるという、これはね僕、あそこの徳島県の神山町も行ってね、そこ町営バス走らしてるけどねもうほとんど乗らないんだって。1台に走っても2人ぐらいしか乗らない。

空気走ってんのもったいないじゃないかと、いうことでここもテストしてるんです。

それはデマンドタクシーみたいな感じで走らしてます。

で、それで走らして採算合うのって言ったらね、合わない。15%をお客さんからもらうけど、85%は町が負担してますと。

そんなんだったらね、どれぐらい町は予算とってんのって言ったら、8000万円とってると、8000万円。

町はその感じで、もしコミュニティで走らすという感じだったら、どれぐらい予算出せるんですか。

○委員長（池田忠史君）

松本総務部理事。

○総務部理事（松本真由美君）

以前は豊能町の中リレー便が走っておりまして、町の事業としてコミュニティバスのようなものを走らすということがございました。

それをやってたんですけれども、おっしゃられてるとおり空気を運んでいるという状態が続いてきましたので、そこの部分をデマンドタクシーに変えたりとか、あとは地域公共交通をどうしていくのかということで今回のハニタスですね、こちらのほう

を社会実験としているというところでございます。

○委員長（池田忠史君）

小寺委員。

○委員（小寺正人君）

僕の感覚と、お客さんというか住民の人の感覚ですけどね、僕は西地区におるから西地区のことで話しますけど、光風台の駅からね、歩いて行けるという範囲がどれぐらいあるのかという、ちょうど新光風台に僕ら行くんですけど、坂道をずっと上って初めての信号のところで700メートルですわ。大体10分も歩いても10分はかからんと思うんですけどね。

この辺の人は絶対乗らないと僕は思いますわ。乗る人は特殊やと思うけどね。

それでそれに対して、東側向いて行く人はね、どのあたりっていうか、あそこ、診療所あるじゃないすか。あの辺までやったら、10分以内では歩けるらしい。

だからあの辺に住んでる人は、基本的に多分乗らないんじゃないかなと。見てたら歩いているような気がするけどね。

そうすると、本当にバスが必要である人っていうのは一体どこに住んでる人かなということも、調査しないといけないんじゃないですかと思いますけどどうですか。

○委員長（池田忠史君）

田中総合政策課長。

○総合政策課長（田中久志君）

はい。総合政策課、田中です。

先ほど中川委員からの御質問のときも本当に今必要とする人はいないのではないかとこの御意見をいただいております、どのエリアの人が必要としているかというのは当然見ていかないといけないと思っております。

アンケートとあわせまして人流分析といえますか、こういった皆さん動きをされて

いるのかというところもあわせて見ていこうと思っております、先ほど私が御説明と言いますかさせてもらったところの補足で言いますと、以前の2月のときに乗って今も乗っている人、これは例えばですけども、免許をお持ちでない免許返納例えばされたとか、あと、家からバス停までが遠いとか、こういう方がひよっとしたら乗っておられるんじゃないかとかっていうのもそういったいろんな仮説が立てられるわけなんですけども、そういうところも人流分析、データをもとにですね、そういったところも実際どうなのかというのを見ていこうと思っておりますので、はい。

そこはエリアのところも含めて、見ていこうと思っております。

○委員長（池田忠史君）

才協委員。

○委員（才協明美君）

東西のリレー便ありましたよね、空気運んでたとか言うてはりますけどそんなことなかったですよ。

わざわざ、西地区の方が学生がうちに、日本舞踊の稽古に連れて来られましたよ。

そしてふれあい文化センターでお稽古してるときにも来てはりましたよ。

そんなことはなかったと思うんです。それがあれがなくなってから、何か東西の行き来が交流がなくなったと。こちらの風景を見たいっていう人もおりますよ。

そしてですね定期券、今、何人か買われていますか。あのね、人数とそしてやっぱり利用者が少ないというのはやっぱり値段です。

何やかんや言うてはるけど絶対値段です。行って帰ってくるのに600円、スーパーで100円の野菜買いに行くのに600円使えますか。

私たちもしここにA I オンデマンドバス

が来たら、ここに役場に来るのに600円かけて来れるかなと、計算します。

それやったらお父さんに送ってもらおうかなとか、いろんなこと思います。

まず、その辺、いろいろなことを言うてはりますけどちょっと値段ですわ値段。

そして定期券は今何人ぐらいおられますか。

○委員長（池田忠史君）

田中総合政策課長。

○総合政策課長（田中久志君）

はい。総合政策課、田中です。

運賃のことにつきましては先ほどからちょっと御説明させてもらっているとおりでございまして、300円がですね、感覚的に高いというような御意見はたくさんいただいているところがございますので、そこにつきましてはもう、アンケートなんかもこれからとっていきながらまた引き続き見ていくというところで御理解いただきたいと思えます。

それから、2点目の定期券のところなんですけども、定期券につきましてはちょっと現在のところゼロというところですよ。

○委員長（池田忠史君）

はい、永並議長。

○議長（永並 啓君）

課長ね、ゼロです、じゃなくて、じゃあどうしてみましようか。さっきのクレジットカードのも22人です。

じゃあどうしたいと思えますとか、今特に社会実験中なんです。この4か月ってすごい大事なんです。

だからもし駄目だったとしても1か月の集計です、22人でした。22人はちょっと余りにも少ないんで今度はこういう取組してみますとか。それがないと、何か聞いていると、現状報告して、これからののが聞こえてこないんですよ。

ゼロです、ゼロだったらいいんですか。

失敗ですよ、ゼロを増やすために、今度、ゼロだから、こういうことをしていきますとかっていうことを言ってもらわないと、あかんと思いますよ。

そういうのは今ありますか。

まずそれをお聞かせください。

○委員長（池田忠史君）

はい、田中総合政策課長。

○総合政策課長（田中久志君）

はい。総合政策課、田中です。

今回の実証実験の中でですね、新しい取組としましてクレジットカードの支払い、それから定期券の支払いというところを実証実験取り組んでいるところなんですけども、そういった今回ニーズがどれぐらいあるのかというのも一つ実験の大きなところになっているのかなと思っております。

クレジットカードにつきましては、我々がアプリの説明会、登録会に行った際ですね、そういった御案内もさせていただいておるところなんですけども、なかなかクレジットカードまではいいわ、現金で払うわというようなところもありまして、今のところは、すいません、説明会での御案内というところを続けていきたいというふうに考えております。

定期券につきましては、今、販売のほうを阪急オアシスとデイリーカーナートイズミヤ、こちらのほうのインフォメーションといたしますか、そういった窓口のほうで、販売をさせていただいているんですけども、当然御案内のほうはしておるつもりではあるんですけども、なかなかその周知のほうが十分でないというような状況もございますので、そこにつきましては毎月ちょっと今広報のほうに、チラシのほうをちょっと入れさせていただいてるんですが、そういったところで再度、PR、周知していくと

か、そういったところをちょっとやっていきたいというふうに考えております。

○委員長（池田忠史君）

はい、永並議長。

○議長（永並 啓君）

やっぱり議会の感覚のほう合ってるんですよ。

クレカの時も指摘ありましたよねPiTaPaとかだったら、今、僕は持ってないんですけど、電車乗ったらみんなピッピッピッて行きますよ。僕、切符入れるんですけどね。でも、ほとんどの人がピッて行くんですよ。

それだったらいいけど、クレジットカードっていうのは、ほぼほぼないですよ。

この結果をわかったんだったら、そっちはもうそっちに何とかしようじゃなくて、切り替えるっていう選択をしていかないと。

この運賃にしてもそうですよ。議会から最初っから、無償でいいの、有償にしたほうがいいんじゃないの。100円でも取って。そうしないと実際に運行したときに、この差が多いと明らかに利用者減るよ。

結局、少ないですよ。

だから、課長とか理事がアンケートって言われますけど、ここにいる人も住民の声いっぱい聞いてるんですよ。ここの声聞かずに、まずここの声聞いたうえでやってたらもうちょっと事業をスムーズにいつてると思いますよ。

今問題に上がってること、過去にほぼほぼ指摘してますよ、運賃のことにしても。

それとあと1点、コミュニティバスって乗らないんですよ。乗るとこだったら、路線バス走りますから、黒字なんだから。

でも行政はそういうわけにはいかない、乗らない交通が全くないところにも、何らかの方策をとらないといけないからコミュニティバスなりを走らすんで、ちょっと勘

違いされてる方もおられますけど、コミュニティバスで利益を出そうというのは、土台不可能な、そこをわかったうえでそれでも地域に住んでおられる方がいたらその方を孤立させないためにコミュニティバスというものがあるわけですよ。

ですからそれなりの赤字負担をしたとしても、そういう交通体系というものは維持していくってことが行政の責務であると思いますんで、そこら辺も踏まえたくえで、値段設定というものも考えていかないといけないと思いますよ。

○委員長（池田忠史君）

これ値段についてはもう最初からずっとの話だと思うんですけど、これ、実証実験中は一切変えないという前提で進んでいくのか。例えばどっかで値下げするとか、その辺何か考えていったりはされるんですか。

はい、松本総務部理事。

○総務部理事（松本真由美君）

お待たせして申し訳ありません。

金額設定は地域公共交通会議を経てそこで承認を受けたものを陸運支局のほうに出し届出を出しまして、お認めいただいたうえで進めているというところでございます。金額を変えるというのがですね、2月までの実証実験の間には、期間的に申し訳ございません不可能でございますので、金額を変えて社会実験を例えばここで御意見いただいたものを活かしてですね、そういう方向で進めていくということになりますと、2月の期間中の中で、変更することが難しいというようなことが出てきます。

最初に無料で走らせたのがっていう御意見もあるんですけども、そのときは御説明の中でこういう乗り物が未来にはあるんだということをいろんな方に知っていただきたいといううえで、走らせたということがございましたので、人数がこれだけ減っ

ているのは何かというのは、料金であるとか、いろいろなことが、響いてきてるとは思うんですけども、その中で御利用になれる本当に御利用になれる方はどういう方だったのかっていうのを、この実証実験の間に見ていくということを進めていきたいというふうに考えております。

こちらの中でいただいた御意見ですとかそういうものは、もちろん全て真摯に受け止めさせていただきまして、意見として活かしていける方向で検討はしていきたいとこのように考えています。

○委員長（池田忠史君）

はい、才協委員。

○委員（才協明美君）

私ね、議員になって初めてこの11月3日のキックオフ、これ参加したときに、これスマートシティいいなと思ったのはね、ここ最後に書いてある、CSPFCはみんなで作るスマートシティ協議会です。競争ではなく共創、共に創るを目的として皆さんの参加をお待ちしております。

私これが、これ4回目だと思うんですね言うのん。スマートシティに完成形は無い。自治体／企業だけでなく住民と一緒に育てていくスマートシティです。

これはすごいいいなと思ったんです。

完成形は無い、そして、皆様、アンケートなども行い、常に修繕しますって行っていますって書いてるんですよ。

それ忘れてないですか。

○委員長（池田忠史君）

松本総務部理事。

○総務部理事（松本真由美君）

どういうふうに変えていくかっていうのを見極めるための今回が2回目の社会実験だと思いますので、1回目の1か月の社会実験で、この乗り物をお披露目して皆さんに見ていただいた、これを町の中に走らす

ということはいかがですかというふうにアンケートをとったところ、いい、走らせてほしい、こういうものがあったら乗りたいという意見はたくさんありました。

それが無料だったからやって言われたら、そこんところは少し確認することはできませんが、そういう御意見をいただいたうえでですね、改革という意味で、2回目の今回、期間を長く設定しての、ことをしていきますので、作り上げていく、変えていくっていう、第2ステージなのかなあって思っています。

それから共創していく共に創っていくところについては、今回阪急バスが共創モデルという国土交通省の補助金をとっておりますので、地域課題として、交通まちづくりを考えていくっていうの一つの視点と置いておりますので、共に創り上げるという意味で、中学生のところにも、阪急バスの職員も行きまして、交通ってというのは今こういう状態になってる、人口が減って、交通がなくなる日が来るかもしれないというようなことを子どもたちと一緒に考えていくという時間をつくりながらですね、そのあとにハニタスをみんなに周知していこうという生徒会からの声もありましたのでスマホ教室をさせていただいたり、ハニタスぬるを中学生にも参加していただいたりしているところで、共に創り上げていくっていうところはそういうところでさせていただいているのかなと思っております。

○委員長（池田忠史君）

はい、才協委員。

○委員（才協明美君）

ではこの目的地は何なんですかということなんですか、今言うてるのはみんなイベント屋みたいなこととしてはありますやん。

違うかな。違うかな。

目的、目的はこれを走らせる、快適に走らせる。

松本部長言うてはるのは何か、何かイベント屋のような感じがしますけどどうでしょう。

○委員長（池田忠史君）

はい、松本総務部理事。

○総務部理事（松本真由美君）

はい。イベントを取り入れながらですね中学生とともに交通ってどういうものを考えていくか、そこの中学生と一緒に塗るところに、地域の方たちも参加していただいでですね、交通と一緒に考えていくきっかけづくりとして、イベントをさせていただいているというふうに思っております。

○委員長（池田忠史君）

はい、高尾副委員長。

○副委員長（高尾靖子君）

一般質問でもね取上げて、いろいろ高いとか、それから割引券が発行できないとかいろいろ言いましたけれども、今、御答弁をいただいでる限り、公共交通会議で決まったことだから今は変更できないと、そういうことなのでなかなかこれはここでは解決できない問題なのかなと聞いておりますが、今実証実験中っていうところでね、やはり多くの方の利用者がいないとなかなか正確な実証的なデータは出ないん違うかなというふうに思うんですね。

その点、今おっしゃったような、机を出していろいろハニタスの宣伝、利用を促してはるのはそれはよくわかるんですけども、この点これがずっともう寒い2月まで続くということにはならないかなと思うんですね、出足がやっぱりもっと悪くなると思うし。対象が、高齢者の方が多いのかどうかねその辺の年齢層とかは、そちらのほうでは把握できてるような状態なんでしょう

か。

利用の年齢層っていう、わかります。

○委員長（池田忠史君）

はい、田中総合政策課長。

○総合政策課長（田中久志君）

総合政策課、田中です。

アプリのアカウントを登録する際には、年齢とか、生年月日というような情報については入力しないことになっておりまして、それでですね、今後もアンケートをとる中でですね、例えばその年代についても聞いていくというようなことではとれるかなと思っております。

○委員長（池田忠史君）

はい、高尾副委員長。

○副委員長（高尾靖子君）

大変残念ですがけれども、一般質問で質問してもなかなか答えがね出てこなかったもので、これはちょっとつらい話ですがけれども、住民の皆さんは今先ほどからお話があったように、一日のお買物で往復で600円払うというのは確かに大きい出費だと思うんですね。

これが週に何回使うことになるのかとかそういうことでも変わってきますけれどもね。

その点での、他の自治体では、100円とか無料とか、そういうのが、いろいろデータで調べたら多いんですけれどもね。

これは、これから使うことを前提に走らせているということ、コミュニティかな、身近に走って、皆さんの足になるというそういう観点があると思うんですけれども、料金についてはね私は高いというふうに思ってるんですね。

今5000円の定期券もなかなか発行ができてないということでは残念ですよ、確かにね。

そういう点での、今の状況がわかりまし

たのでね、大変厳しいこのオンデマンド交通の事業やなど、いうふうに捉えます。

これは今は何ともできないというお話なので、これ以上ちょっと言うても無理なのかなと思いますけれども、いい方法が今一生懸命やっておられるいうことを前提にもっとそれじゃ利用者をね、引上げていくということしかないんですね。

ちょっとその点は、今後2月まで。

○委員長（池田忠史君）

はい、松本総務部理事。

○総務部理事（松本真由美君）

はい、利用促進についての御意見はたくさんいただいているということはわかっています。

で、クーポン、無料のものを出してみても、利用者を上げるっていう意味がですね、乗ったことがない方に乗っていただいている意味なのか。

ただ、タダだから乗っていただいている利用の乗車率を上げてただけなのか、その辺りをどういうふうに整理するのかなっていうのもございますので、御意見としていただいている検討は続けたいと思っています。

で、一つはシートスに御利用なられている方のバスがいっぱいでは、利用ができなくて歩いては行きにくいから、もっと行きたいけれども、ハニタス乗って来てるんだけれども毎回になると少し費用かさむのよねみたいなのもロビーで、御意見としていただいておりますのでそちらについては館長さんにですね、そんな御意見をいただいているということをお伝えしてですね、何かシートスと一緒にですね、シートスに来られる方の利用も、もう少し上げれるんだけれどもバスがそういう状況で、利用者があまり増えていないというそのところとハニタスを掛け合わせてですね、何かそういうことができないかっていうのも、考



えているというところではございますが、この時点でだから何をするというのは決まっているところで、お話しできる場所がないという状態です。

○委員長（池田忠史君）

はい、中川委員。

○委員（中川敦司君）

中川です。

次の質問はですね、人数でね、御利用されてる人数、ここにちょっと特化して質問してみたいと思うんですけども。

2月の実験が終わった後にですね、何かの説明のときに、聞いたように思いますが、大体利用者の利用されている時間帯が朝、午前はずっとこうね、結構使われてる。次はどっちかいうたら夕方やったか何か、そういう時間帯に使われてますみたいな、そんな説明を聞いたような記憶があります。

で、当然行ってるところは言うたら、オアシスとかの、食べ物かな、買い物に行く人も当然いてるし、当然電車に乗るために駅に行っているような方もいらっしゃる。そのような分析をされてたんですね。

で、利用の状況を見ると、私なりに頭の中に、棒グラフみたいなんを描いたら、午前中にブクッと山があって、夕方にまたブクッと山があるみたいなね、そういう分布図みたいなね、そういうふうなグラフが頭に思い浮かぶんですけども。

今回、今約1か月経った状態で、一日平均22人というふうなね、さっき説明ございましたけども、この22人というのは、やっぱり同じような分布なんですか。朝にポコッとそれから夕方にポコッと、まずそっからお伺いします。

○委員長（池田忠史君）

はい、田中総合政策課長。

○総合政策課長（田中久志君）

はい。総合政策課、田中です。

利用状況につきましては、前回の2月のとき、さっき中川委員おっしゃったとおり、10時から11時に大きな山がありまして、昼間ちょっとこう少なくなって夕方また4時から5時にかけて大きな山が来るというような、状況でしたけども、今回も実は同じような状況でして、やはり10時から11時が多い状況で、それ沈みましてまた夕方に増えていくと、こういう形につきましては同じような状況で来ております。

○委員長（池田忠史君）

はい、中川委員。

○委員（中川敦司君）

さらにちょっと質問させてもらいますが、やはり山の傾向は一緒やと分布のね、傾向は一緒で、利用者の行き先、そこまで掘めてるかどうかわかんないけども、要はそのやっぱり午前中やったりお買い物かなとかどうか電車に乗って行きはんのかなとか何かそういうふうなところまでは何かもうデータとかがあるんですか。

○委員長（池田忠史君）

はい、田中総合政策課長。

○総合政策課長（田中久志君）

総合政策課の田中です。

乗降場所につきましてもですね、これも似たような傾向、ほぼ同じでして、やっぱりときわ台駅、それから光風台駅、これがワンツースでして、阪急オアシス、デイリーカーナートイズミヤ、それからシートス、この五つがですねベストファイブになっておりました、これはもう前回と似たような、似たようなというか、ほぼ同じような状況になっております。

○委員長（池田忠史君）

はい、中川委員。

○委員（中川敦司君）

ということは、この間のときは無料やったから、別に歩いても行けるけども乗った

ろかみみたいな感じで利用者も結構あったというふうなことですけども、今回300円払ってでもやっぱりお買い物には行きたいわと。電車に乗ってどっか行きたいわというそういうやっぱりそういう方も当然いらっしゃるといふような結果になって、今1か月の段階ではね、そういうことでよろしいんですね、そしたらね。

○委員長（池田忠史君）

はい、田中総合政策課長。

○総合政策課長（田中久志君）

はい。総合政策課、田中です。

そういった現状といたしますか、検証ができるかというふうに私どもも思っております。

○委員長（池田忠史君）

はい、中川委員。

○委員（中川敦司君）

あと分布の状態やっぱり午前の10時から11時がポコっと一遍山になって、また夕方にポコっとなる言うてるけども、そのポコっという山っていうのは、大体何人の、一時間あたり何人、マックス何人ぐらい、例えばこれが5人なのか、22人やから単純に分けたら午前10人、午後10人みたいなそんなふうな、簡単に言えばそんなふうな感じやから、マックスようあっても一時間に10人なのかなと、最大でね、山。

そんなふうな私、ちょっと単純計算して思ったんですけどその辺りどうなんですか。

そこまではわからないかな。

○委員長（池田忠史君）

はい、田中総合政策課長。

○総合政策課長（田中久志君）

はい。総合政策課、田中です。

すいません、ちょっと今そこまでのデータは今持ち合わせてはおりません。

すいません。

○委員長（池田忠史君）

はい、中川委員。

○委員（中川敦司君）

あの経営的な部分でちょっと私も、私は経営者ちゃうけどもね。

こんなんやったら経営者の的に考えると、確か3台あって、1台予備でっていうね、そんなふうな車両ね、準備されてるけども、2月のときは、初め3台で動かして最終の頃は丸々全部4台動かしてって、おっしゃってたけども、もしも私の言うてるような一時間にマックス10人までのような状況やったら、例えばその3台も要らんのちゃうかと、1台で十分賄えるのかなと。

もしそれが可能やったら、3台分の人件費払わんでもええんちゃうとかね、私はそんなふうな考えたりする、経営的なね、視点でいくと。

そんなんを考えたら、どう思われます。

○委員長（池田忠史君）

はい、田中総合政策課長。

○総合政策課長（田中久志君）

はい。総合政策課、田中です。

前回の2月の実験ときにはおっしゃるとおりですね、最後の2日間は4台車両4台で回したというところになっておりましてそれまでの利用者数が多かって、不成立、予約不成立っていう部分もたくさんありましたので、4台試してみたというところがございます。

で、その意味で言いますと今回3台で今走らせておりますけども、人数的なものでいうと1台でもいけるかどうかというところの検証についても、できないことはないかなと思っておりますけども、そこはちょっとまた協議会のほうでもですね持ち帰りまして、ちょっと検討したいなというふうには考えております。

今の段階でいついつから例えばそれを2台にして走らせませ、1台にして走らせま

すというところまでは今は決まっておらないというような状況です。

○委員長（池田忠史君）

はい、永並議長。

○議長（永並 啓君）

今の段階で知ってるか知らないかって議論しても駄目だと思いますよ。

周知するとか、今の時代はもう本当に別に無料のときはあんだけ乗ったでしょ、周知だってできてないのに、要は、別に無料ということはどことなく伝わるんですよ。

こんなちっちゃい町だからそんな一生懸命チラシまいたりとかしなくても本当に利用したかったり得やなと思ったら、使うんですよ。一生懸命頑張らなくても、そんなもんですよ。

やっぱりね、何かバス事業者とか地域事業者は値上げしかしてきてないんですよ。

これまで、いろんな電鉄の運賃とかもね。

でも、市民感覚からすると住民感覚からすると、下がったってなったら使うんですよ。

利用者が少なかったら、期間限定でこっだけお得になりますとか、やってちょっとでも利用者を増やそうとするんですよ。やっぱり値段というものは非常に重要なんですね。

特に4か月という社会実験なんでできませんって言ってしまったら、もう多分、2月終わった後の課長の答弁大体わかってますよ、周知不足でしたこのままの状況がずっと続くような何かもうそういうイメージしかできないですよ。

何かアクションして、今後、豊能町にこの事業を根付かせるんだったら、どの段階だったら乗るのかなと。

今は乗らなくてもさらに今は乗らないのは、歩ける人が多いから、車を持つてて人が多いから乗る必要はないけど、さらに、

免許返納して高齢化が進んだときは絶対必要になってくるわけですよ。

そこら辺の対象もぶれてるんです。何か普通に、生活している人たちに使ってもらおうとしてる、そういう人たちは普段車ですよ、歩きますよ。でもそれよりももっと免許返納せなあかんとか、高齢化が進んだときには、絶対こういう足って必要になるはずなんです。

そこら辺の対象がぶれている。その対象はもっと高齢化しているんだったら、スマホでの予約が難しいかもしれないということは、スマートシティの事業が始まったときから言ってますよね。

そこら辺の対象というものもずれてるし、それにさっきも言いましたけど地域公共交通会議に引っ張られてるような感じがするんですよ。

都会のほうでは、バスを使う文化がある、だからバスでは立つしかないから、でもタクシーだと高いから、じゃあ間のオンデマンド交通が使おうかな。

でも豊能町の場合はバスを使う文化がないからカラで走ってる。その状態でオンデマンド交通のバスを使って出したとしても増えるわけじゃないですよ。

やっぱりそこら辺はもっと地域に根差した、議会であったり住民の個々の感覚で事業を進めないと、確実に失敗しますよ。

今もう成功のイメージできてますか、2か月後。難しいと思いますよ。

何かここで、取りあえず次年度に残るような何か変えて試してちょっとでも利用者を上げる、何か種を見つけておかないと、それは何か、ないですか。

○委員長（池田忠史君）

これ、今実証実験中ですよ、実施して運行してるわけじゃないんで、その会議で確かに何か金額決めたとか、いろんな状況

はあると思いますけど、運行中変えることは可能というか、いいと思うんですけど。

はい、高木副町長。

○副町長（高木 仁君）

今、永並議長からいろいろ御指摘、御意見ちょうだいしております。

今は4か月間の実証実験で運行しているというところがございますので、これが完成形ということではございません。で、我々引き続き、いろんな可能性というのは当然検討していかなあかん段階であると、いうふうに思っております。

今年度につきましてはこれ阪急バスの共創モデル事業ということで、阪急バスが相当の補助金をとって、この事業をやっていたところもございまして、阪急バスのほうとも、協議させていただきました。2月の19日まででしたかね、限られた期間でございしますが、これから何ができるのかということではですね、改めて検討させていただいて、またこの場でこういう形でやらさせていただいております、あるいはこういう形でさせていただきますということでお示しさせていただきたいというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

○委員長（池田忠史君）

はい、才協委員。

○委員（才協明美君）

私びっくりしたんですけど、4台のうち3台ではなく、3台のうち、一日19人や22人で、これ3台走らせるということ自体私ももうびっくりして、こんな質問、こんな当たり前のことやろうと私今思ってね。

でも、わかっていない、わかっていないとか把握してなかったのということがものすごくショックです。

いやいや3台走らせてるんでしょ、それがものすごくショック。

そしてその完成形が無いって言うてるんだから、これがもうたい文句なんですから、どんどん修繕していったらいいじゃないですか。実証実験中であっても。

そう思いますよ、それはもう町民、理解すると思いますよ。快適な交通を目指すまちづくり一生懸命やってるとしたら、何ぼでも修繕利くと思いますよ。

そうじゃないんでしょうか。

副町長。

○委員長（池田忠史君）

高木副町長。

○副町長（高木 仁君）

先ほど私お答えさせていただきましたように、今これ完成形というわけではございませんでして、いろいろ実証実験ということで検討しているところでございます。

3台運行してるということでございますけども、これ22人乗っておられましたので、例えば先ほど中川委員もおっしゃってるように、1台で賄えるような人数は確か人数なんですけど、これ1台にしたら何人乗るのかっていうところまた、台数とその利用者っていうのは、その兼ね合いというのはちょっと私もいろいろイメージしてるんですが、1台で一日まわしてると22人本当に乗っていただけるのかなあというところも、疑問には思うところでございます。

なのでその台数というのは今、完成形というのが今、才協委員おっしゃいましたけども、完成形ではないというところではございますので、これ、先ほど申し上げましたようにあくまで今、実証実験で、阪急バスのほうが、補助金取りながら事業をやっているこの機会というところを我々、もう少し前向きにとらえさせていただきましてですね、これからいろいろ模索は、引き続き模索になるかもわかりませんが、ぜひさせていただきたいというふうに思い

ます。

で、このAIオンデマンドバスっていうのはですね、我々も何とかこれ形になるものにさせていただいて、将来に向かって走り続けさせていただきたいというふうに思っております。

おそらく皆さん、議員の皆さんも同じ思いで、予算のほうもお認めいただいて、この間いろいろ関心を持ちながら、いろいろ厳しい御意見あるいは御指摘いただいているというふうに我々も受け止めておりますので、引き続き、今回いただいた御意見を踏まえながらですね、我々もできる限りのことはさせていただきたいというふうに思っております。

○委員長（池田忠史君）

才脇議員。

○委員（才脇明美君）

実証実験中の実験されたらどうですか。

4か月の期間じゃなくて、1か月単位とかで、それで更新していったらいいと思いますよ。

○委員長（池田忠史君）

これちょっと私から確認したいんですけど、アプリの登録者数894名って聞いているんですけど、前回2000名ぐらいおりましたよね。

その更新をしないと乗れないっていうのは皆さん理解されているのか。

乗ろうと思ったらアプリ使われへんかったらもうええわっていう人についての案内とかっていうのと、あとちょっと、さすがにこの人数だとないたと思うんですけどこれで配車の不成立って起こってることってあるんですか。

はい、田中総合政策課長。

○総合政策課長（田中久志君）

はい。総合政策課の田中です。

まず1点目の御質問のところではアプリを

更新しないといけないというところで、もし仮にですけども前回のアプリを入れておられた方がそのままスマホ上にアプリが残っている、今回、改めて予約をしようと思ってアプリを開きましたとなった場合は、自動的に更新がかかるような仕組みになってまして、ただ、更新がかかったときに、アカウント登録、お名前を入れていただくとか、携帯の番号で認証するとかっていうアカウント登録について再度やってもらわないといけないような状況になってますので、すいません、そこはもう開いて初めてわかるような状況になってまして。あとはアプリ説明会の際には、前回入れられてましたかと、そういうときは今回更新かかるので、もう一度、アカウント登録させてもらいますということは説明をさせてもらってやっておるという状況です。

2点目の不成立につきましては今のところは不成立というのは、ほぼないような状況。

○委員長（池田忠史君）

ほぼってあるんですか。

○総合政策課長（田中久志君）

いやないと思います。はい。

○委員長（池田忠史君）

委員さんからいろいろ意見がありましたけれども、まずはやはり、乗ってもらう周知をもう一度、どういう形で周知するのかなですよ、というのがまず必要だと思います。

ただ、走ってますっていう周知では全く足りないんで、それ以外の方法も考えていただかないと駄目かなと思うのと、あとはやはり料金ですよ、この期間中料金変えられないというお話ですが、例えば最後1か月だけでも200円にしてみても利用率が上がるのか下がることはないでしょう、上がるのかどうかというの、確認してみたら、

最終的に先ほども副町長がおっしゃったように、議員としてもできればこれを実際に運行できる形にしたいと思ってますんで、であるならばどこまでがそのラインなのか。若しくはどの辺まで町が負担するのかとかいう話もありますけど。

なので、その辺の金額等の設定も考えないと駄目なので、その辺ですね、いろんな実証実験の間にできることをしていただいでですね、ちょっといろいろ考えていただければなと思います。

もうこれについてはもう取りあえず今の現状をもう少し使っていただくような形でしていただくのと、料金はちょっと。

はい、永並議長。

○議長（永並 啓君）

何が変えられるの。4か月やってるんですよ。何ができるの。じゃ意味ないよ。

ここで途中で、いやここで、AIオンデマンド交通の実証実験のことを取り入れているのは、途中で、いろんな修正かけれたり、今回、4か月もあるんだから、いろんなところ試してね、これから将来的にどうするかっていうのを考えると、ぜひともしなきゃいけないそのためにはいろんなところで値段設定なり利用者なり、考えないといけない。でも、今少ないままずっと行くんだったら、意味ないですよ、4か月する意味がないんだもん。

この4か月の後の残りの2か月、3か月の間に何が変えられるんですか。

変えれるとどこですか。

○委員長（池田忠史君）

松本総務部理事。

○総務部理事（松本真由美君）

はい。御存じない方にですねどのように知っていただくかという周知をですねという方向でしていくかということ、それから料金については地交会議で決めているも

のですのでその金額を下げるということは難しいですけども、例えばですけどほかの方法ですね、乗りやすいことが検討できないとか、いろんなことは考えていけないといけないと思っています。

この取組については町の事業といいましても、3者ですしております。

ほかに、企業体の方も入っていただいて4者での取組とかいう会議もございましたりしますので、今日いただいた意見をですね、全て持って明日会議がございまして明日の会議で報告したうえでですね、私たちだけで決めれないことがたくさんございますので、その会議の中でですね、料金が低いということを、いろんな方、いろんな形で、御意見いただいたということ伝えてですね、どういう方向で、料金が低いことをですね、緩和できるのかっていうのは明日の会議で持っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○委員長（池田忠史君）

はい、永並議長。

○議長（永並 啓君）

企業さんも嫌でしょう、この状態で4か月やったって。企業さん側から出ると思いますよ、今度こうしてみましようかって。

どこら辺が、損益分岐点じゃないけどどこら辺が利用者が乗る値段かなとか。

金額割り込んでって言いますけど定期としては下げれない、じゃあ割引クーポンを出すとか、一定期間であったとしても、この料金は300円だけど、最後の1か月は町が100円なりを負担しますとか、何かして、何か変化を起こして次につながるようなことをしないと、これこの状態で4か月終わったら次に何繋げるんですか。

料金高かったですね、終わりですね、高かったら乗りませんでしたね。あとは。

でも、高かったら乗らないけど200円やっ

たらこだけ乗りましたねやったら、参考する材料が増えるじゃないですか。

何か次に残すような実験にしないと。

もうぜひとも考えてみてください。

○委員長（池田忠史君）

これ来年もまた可能性としては実証運行する可能性もあります。

はい、高木副町長。

○副町長（高木 仁君）

KPIについてはまだ来年度も、デジタル田園都市国家構想交付金いただいておりますので2年間ということでございますので来年も続きます。ただ来年度は、どういう仕組みでやるのかということはまだ全然これからということになってまいります。

先ほど永並議長がおっしゃいました件でございますけども、我々、4か月という期間長い期間でございます、この間に見直しというところで、先ほど料金のところは関係機関がございまして、なかなか見直しが難しいというところは御説明したとおりでございます。

料金を、今300円ですか、それを下げたらどうなるのかというところは、我々としてもシミュレーションとしてはやってみたくところではございますが、先ほどから申し上げておりますように地交会議もそうですが陸運局という手続ありますとどうしてもそこは、4か月という期間に間に合わないというところがございますので、何ができるのかというところはですね、一度、先ほどから申し上げておりますが阪急バスのほうと調整をさせていただいたうえで、またお示しさせていただきたいというふうに思います。

今まで我々、周知というところは、なかなか限りがございます。狭い町内でございますのでできることはやらせていただいているつもりでございます。

いろんなイベントも打ちながら、PRもしてきているところでございますが、こういった取組については引き続きやらせていただきたいというふうに思います。

○委員長（池田忠史君）

先ほども言いましたけどバスが走っていること自体は結構知ってはると思いますけど、これは何のためなのかっていうところも含めて、もっと乗ってもらわないとっていうアピールはしていかないと、存続自体がね、便利やからあったら便利やからって言うけど乗らへんねんやったら何のためのバスやねんという話なんで、やっぱりその辺ちゃんと、皆さんにも、バスが走っているという意味じゃなくて何で必要かっていうことも含めたいので周知していただくようにちょっとお願いしたいと思います。

はい、一旦これはここで閉めさせていただきます。

次にですね、その他ですけれども、委員の皆さん、この際何かございますでしょうか。

はい、永並議長。

○議長（永並 啓君）

これまで能勢電への要望を含めて、能勢電のほうにも何回か行かしていただいて、要望して、回答が来ております。

なかなか良い回答は得られていないわけですけど、それを今住民の皆さんに報告はしてるところではあります、やはり肌感覚としても、交通事業者に、こちらから便利にするように要望するっていう時代じゃないのかなという。

もっと利用してもらおう、そのために地域で、行政も一緒になってですけど、沿線でのイベントを企画するとか何かこう、電車を利用することを働きかけていかないといけない時代に来てるのかなと。

そういった感想みたいなことを、この

委員会でもまとめていただいて、最終的な報告、動画でもそうですけど何かそういうことを、つくっていただけたらなと思うんですが、いかがですか。

そうしないと何か要望、能勢電の路線が利用しにくくなりました。ちょっと問題だから議会で交通特別委員会つくって要望行きました。でも全部撃沈しました、はい終わりってなってしまうと。

でも撃沈した中には何回か交渉を重ねた結果、ある程度、事業者の置かれている環境もわかったりとか、その影響の一つで妙見ケーブルも廃止になったりとかしてるんで、やっぱり豊能町の住民の皆さんにもこれから地域公共交通を利用してもらおうという側面からも、こういう状況ですというものをもっと伝えていく必要があると思うんでそこら辺をちょっと交通特別委員会のほうでもまとめていただいたらどうかなと思うんですが。

○委員長（池田忠史君）

そうですね、議会報告会の中で、それぞれの特別委員会でこういうふうなことがありましたっていう報告はしてまして、交通特別委員会におきましても、その要望に行った結果を近々動画アップする予定にはなってますけど、それに一緒にですね、今後また利用していただかないとっていうようなことも含めて、住民の皆さんに周知していくような事は必要だと思いますんで、それは議長がおっしゃるとおり、まとめて報告をしたらいいかんと思うんですけれども、委員の皆さんはどうお考えですか。

才脇議員。

○委員（才脇明美君）

とても賛成です。

先日、この前日曜日、妙見口に行ってみました。

そしたらね、妙見の駅の前で能勢電ハイ

キングって言って、ここがゴールって言ってテーブルを置いて。12月3日に廃止されたのに、割と多くのハイカーというお客様がいっぱいいはって、これはいいやないかなと思ったんです。

車じゃなしに電車に乗って来てはったお客様さんが割と思ったより多かったと思います。

やっぱり豊能町もう、そういう資源というか、観光名所が探せばいっぱいあると思うんですね。そしたらやっぱり、今度はやっぱり西と東西の交通を考えていかなあかんと思うんです。

私、これ、こういうイベントは、観光は、観光名所探索はとでも、やっていかなあかんのと違うかなと思います。

やっていきたいです。

○委員長（池田忠史君）

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

私、時々畦野のコープに行くんですけど、大和バスをですね最初は乗らないとなくなるよってちょっとおどかし気味やって、次は今は29人乗らないとなくなるよって、ポスター貼ってあるんですね。住民をおどかさわけではないけれど、乗らないとなくなるよってということも、乗らないと山下までも行けなくなるんじゃないかということ伝えていかなあかんし、それと、本当に日生まで行けるのかなって能勢電として、能勢電がなくなるっていうことはないのかなと思ったら、猪名川町と川西市と、だから一市三町、力を合わせて、何か企画をしたらいいいんじゃないかなと思うんです。

ゆるキャラと一緒に電車に乗せるとか、そういう楽しいイベントも必要かと思います。

○委員長（池田忠史君）

そうですね、阪急電車さんでイベント電



車走らしたりできるんですから、そういったのもこちらから何かね、イベントの要望とかもできると思いますし、やっぱり使ってもらうために、いきなり、それこそなくなることはないでしょうけど、徐々に改悪って言ったら変ですけど、なっていくことはもうこれから先予測されるんで、そうならないためにも、もちろん、私たち議員がいろいろね動いていかないと駄目なもありますけど住民さん自身もやっぱり乗っていただくって言うそういったことをちょっともう、議会としてお願い、お願いというかアピールしていくことも必要だと思いますけれども。

はい、高尾副委員長。

○副委員長（高尾靖子君）

ときわ台駅前ね、すごくいい駅にしたっていうのは、今後、たくさんの方が、バスを利用できるような、そういうような状況でね、計画的につくられたと思うんですね。

けども、回れないとかいろいろ事情もありますけれども、やはり、ときわ台駅前を活かしていく一つ施策もしていかないといけないんじゃないかなと思うんですね。

これからバスがそのまま通らないとかそんな話になったら、何のために改修して、ああいう見通しのいい広場にしたのかというそういうところでせつない気持ちになりますね。

そのところで何とか活かせるようなことを考えなければいけないと今思いますけれども、すぐには出てきません。

ただ、豊能町には三つの駅がある。その中で、朝はたくさんまだ乗っておられるけれども、もうそれ以降は、本当にもうガラガラっていう格好の電車になってきてる、8時以降はもうぐっと減っている。

そういうような状況なので、それは、とにかく根本的には人口が減少してるいうと

ころに尽きるんですけれども、そのところでの、一つ華やかな、何か考えていかないといけないなというふうに、思いますね。

やはり豊能町の大きな、妙見口もそうですけれども、結構ハイカーの人は、今おっしゃったみたいに、月に何回かあります。

そういうところで私ども活動してる部分もあるんですけれども、やはりそういうことも活かしながら、ときわ台駅もひとつ活かしていく、何か考えなければならぬんじゃないかなと思います。

その点ね、また町のほうでも、考えていただきたいと思う。活性化っていうところではね、あのままじゃもったいないと思いますんでね。

その点、何とか御検討と、私ども今課題として課せられましたけども、何か考えていかないといけないと思います。

以上です。

○委員長（池田忠史君）

はい、中川委員。

○委員（中川敦司君）

中川です。

今、何かいろいろおっしゃっていただけてますけど、このそもそもの議論のテーマは、今回能勢電のいわゆるダイヤ改正についていろいろ取り組んできたけども、そのまとめとして、いわゆるこの委員会として、どんな形で、皆さんに伝えていくんやっていうふうなのが、もともとの今の議論の発端の部分やったと思います。

その部分ちょっと戻させてもらいますけれども、私はいと思います。

要は起承転結っていうふうなね、言葉もありますけども、もともとの話合いが始まったきっかけは、ダイヤ改正があったというね、そこからスタートしてますんで、そのダイヤ改正について、こんな取組してこうなってこうなった。それで我々は、ま

とめとしてこう思います、所感的なね、そういうふうなのをまとめとして載せるのは私はいいことやと思います。

そういった考えでいくとこれにかかわらずほかのテーマなんかについても最後はやっぱりまとめというかね、所感で締めくくってというのが、いいのかなと思いました。

以上です。

○委員長（池田忠史君）

はい、小寺委員。

○委員（小寺正人君）

私はね、ずっとかねがね思ってたのは、道路、道路をもうちょっと良くするっていうか、そういう方向を考えたらバスの循環できるようなね、サークルになってるような道ね、要するに新光風台通って、ときわ台回るようなね、そういう道ができれば、何ていうかな、そこを歩く町の住民もたくさん出てくるだろうしね、今あそこ山道だから、あれですよ危険、危険もあるから、通りにくいんかな。

あれをもうちょっと道路が通れるような道でぐるっと回ればいい町になると思います。

交通の件はね、人口動態、これをやっぱり基礎にして、路線バスを何とか堅持するような施策をとってほしいなと私は思います。

○委員長（池田忠史君）

議長からいただいた意見につきましてはですね、皆さんでちょっと意見を集約してですね、できるだけ早い段階で動画のほうにして、報告というかアップさせていただこうと思いますので、皆さん、よろしくお願いたします。

○委員（中川敦司君）

それでいいんやけどね、みんなで議論してまとめましょうということやけれども、それはあくまでこの議員だけの意見、それ

とも行政側の皆さんとも、きちっと合意した内容でいくのか、議員だけの話で終わるのか、その辺り、どないするんですか。

○委員長（池田忠史君）

一応今回については議会の報告になるんで、議員として一応意見を集約したうえで住民さんのほうにどうか伺う、ちょっと報告させていただくという形の予定にはしています。

他は何かございませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（池田忠史君）

はい。ではですね、ないようですので以上で本日の交通特別委員会はこれで閉会したいと思います。

これに御異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（池田忠史君）

異議なしと認めます。

よって、本委員会は閉会することに決定いたしました。

これをもって第5回交通特別委員会を閉会したいと思います。

どうも御苦労さまでした。

午前 11 時 33 分 閉会

以上、会議の次第を記し、これを証するためここに署名する。

令和 年 月 日署名

豊能町議会 交通特別委員会

委員長